

教育情報化コーディネータの 現実的課題と その解決のための方策の一考察

正来 洋 加藤隆弘 中川一史 堀田龍也

①

教育情報化コーディネータ とはなにか? なぜ必要か (ITCeの理念)

②

現実的課題

『役割が未分化→行政や現場の理解を得るには?』

行政への対応をどうすべきか?
コーディネータとしての役割や権限はどうあるべきか?

『現場の実態...』

学校現場との対応はどうあるべきか?
情報教育推進の重点はどこに置くべきか?

進みつつあるインフラ整備
But スキルや意識の格差
↓
学校間の格差に??

③

理念と現実

『先駆的な地域がすでに存在している』
『本格的な制度的裏付けは、まだこれから』
『現在は教育情報化コーディネータの本格的普及直前 = 過渡期』

価値 = 先駆的事例の分析は
本格的な普及期における
貴重な知見として重要

④

コーディネータ活動の二事例

『T県M郡 N氏』 『I県K市 M氏』

自治体の枠を超えたコーディネータ配置を実現した先進的地域の事例として

明確なビジョンを持ち地域の情報化に取り組み始めたコーディネータの事例として

聞き取り、同行取材による調査→整理

⑤

①活動の背景と課題

T県N氏 I県M氏

平成12年度より郡と県の合意により情報加配教諭身分のまま、郡の教育ネットワークセンター勤務、地域のITコーディネータとして働く。担当地区学校数 約60校弱

平成14年度より、K市教育センターに情報教育兼教科指導主事として、地区の小学校教諭から転任配属。担当地区学校数 約40校

地域の情報教育を統括する
コーディネータとしての
地域・行政からの役割期待

⑥

②行政への対応

T県N氏 I県M氏

現行教育ネットワークインフラの整備維持・管理業務
・教育ネットワークセンター運営
・担当地域・学校のネットワーク整備、維持管理

将来的な教育ネットワークインフラ整備のビジョン策定
現行ネットワーク指定事業の期限切れが迫る。次期教育用ネットワークの構想の策定と、その実現のための予算確保獲得のためのアピール

共通点

⑦

②行政への対応

行政・教職のニーズの把握
成果のアピール

行政へのニーズの把握
『情報ネットワークの整備・管理』
『教育の情報化情報教育の推進』

活動成果の積極的なアピール
『行政への成果アピールは次の活動への支援確保を意味する』

情報化情報教育の推進

⑧

③学校現場との対応

T県N氏 I県M氏

現場支援の徹底(授業・技術支援)
ネットワークのメンテナンス、トラブルシューティング
授業のサポート
地域内ネットワークの構築、一元的な管理

センター研修講座の拡充と充実
希望者全員に対応できる夏期休業中の研修講座計画
地域の課題リーダーを講師とした研修講座開催(リーダー育成)

共通点

現場支援体制の確立努力
教育用ネットワークの活用
研修講座の多岐にわたる活用
研修講座の活用
研修講座の活用
研修講座の活用
研修講座の活用

⑨

③ 学校現場への対応

現場からの信頼

学校現場の状況の正確な把握

- 頻繁な学校訪問 (年間1400時間、1学期に70回...)
- 対応の速さと的確さ

学校現場のニーズへの対応

- 情報教育推進のための環境作り
- 校務等の学校情報化の推進

教員本務外の負担の軽減

かゆいところに手が届くサポート

コーディネータ活動への理解

10

③ 情報教育推進の重点

T県N氏 I県M氏

本格的なITCa制度の普及への期待

自らITCa2級資格を取得

校内推進リーダー(ITCa3級レベル)の育成の公的な保証を希望し、各方面にアピール

各地区の実践リーダー集団の育成

地区ごとのコアメンバーの選出

複数の情報教育プロジェクト立ち上げ

県管理のプロジェクトへの推進

地区リーダー集団に優先対応

共通点

11

④ 情報教育推進の重点

地域情報教育サークルを主宰

地区の実践的・技術的リーダーの育成を目指して...

ITによる授業支援

授業研究会で助言

「広める」指導者の育成

正しい情報教育の認識と実践のできるリーダー集団作り

12

⑤ コーディネータとしての資質・権限

T県N氏 I県M氏

最新の情報教育トレンドをつかむ自己研修

広く県外の情報教育研修会に積極的に参加

全国レベルの情報教育プロジェクトへの積極的参加

指導主事としての権限の重要性

県レベル会議への出席が可能

市の行政組織への要請・連絡が容易

共通点

指導主事責任の明確化

13

⑤ コーディネータとしての資質・権限

情報収集のために

教育委員会、管理職との意志の疎通

活動の柔軟性と専門性

教員出身コーディネータとしての

学校現場の実情の的確な把握

授業指議に関する知見の蓄積

コーディネータとしてのバランス感覚の重視

問題へ柔軟な対応のために

学校現場への頻繁な訪問、対応

共通点

14

まとめ

行政・地域からの期待

それに応えるためのニーズの把握、成果のアピール

現場からの信頼と理解←手厚いサポート活動

「広める」指導者の育成

コーディネータとしての柔軟性と専門性の確保のために自己研修と情報収集

15

今後の課題

過渡期から普及期へ

→ 継続的に情報収集・分析

より多くの事例を収集 (より多くの事例の検証)

16